



# 医療費は「6歳まで」 無料に

弥吉 治一郎 議員

談合に深く関与した  
大藪組の処分は見直せ

一般競争入札の実施を

**問** 大木町の談合事件では、市建設業最大手の大藪組が事件に深く関与したとして摘発された。大藪組は以前の工事でも1,000万円もの「ワイロ」を贈っていたとして贈賄でも裁かれたが、筑後市でもこのような事を行っていたと考えられるのが普通だ。市は指名原案を変更した様な事はな  
**副市長** 指名選考で大木町のような建設業者の圧力はなかった。逮捕後、大藪組には12カ月の指名停止を決定した。

**問** 談合を防ぐには一般競争入札を実施すべきだ。  
**副市長** 本年4月から1,000万円以上の工事は一般競争入札を実施する。  
**問** 1,000万円以上の工事が対象では、発注件数が少ない。500万円まで下げるべきだ。  
**副市長** 1年間の試行後、500万円まで下げるのか見直す。

**問** 県は就学前（6歳）までの医療費負担制度を改正する。しかし3歳から就学時までの入院、通院には自己負担が必要だ。八女市や久留米市は子育て支援策として、自己負担の増加分は市が負担する。筑後市も市の負担にすべきだ。  
**市長** 十分受け止めながら検討する。

**問** 悪質事件に他市は追加処分をしている。筑後市も処分を見直せ。  
**副市長** 大藪組への指名停止期間の再検討は、4月早々に行う。



待たれる子育て支援

# 女性の健康をサポート特徴ある 病院経営を

五十嵐 多喜子 議員



母親と赤ちゃんの健康を守る産婦人科外来

院として完成する事。次に、診療科の特徴を出す事だと解っているが、大学からの派遣医が少なくなり、他病院でも診療科が減ってきている。専門医のほとんどが、男性。男性医が診る女性専門外来なら作れると思うが、今は医師不足という現状がある。

んの発症が急増している。検診対象年齢を平成17年4月から30才を20才に引き下げている。女性のがんの検診は、恥ずかしい、面倒、怖い、痛そうと感じる女性が多い。がんにかからないための正しい知識とがん検診の重要性の機会を捉え伝えていく。

温泉の効用を市の活性化にとりこめないか。

## がん検診ごとのきめ細やかな取り組みを

**問** 子宮頸がん、乳がんは検診の有効性が証明されているが、受診率は低い。若い世代への検診の啓発と取りくみは。  
**健康づくり課長** 20代から30代の女性の子宮頸がん

**問** 市立病院は市民の健康を守るという大切な役目を担っている。女性が健康で安心して生活できる事は、男性にとっても重要。女性特有の病気や安全な出産。男女共通でも、男性より発症率の高い病気がある。性別によって異なる対応をとる事が、予防や治療の面で役立つ。特徴ある病院経営については、どう考えているか。  
**病院長** まずは、急性期病

**問** 船小屋温泉は有名。既存の施設を、温泉利用型健康増進施設として、できないか。一定の利用方法で、施設利用料、往復交通費が、所得税の医療費控除対象になる。  
**市長** 大変ユニークな提案だ。健康立市。目指す方向だ。